

【抄 録】

『最低限必要な機能を有した義歯の製作についての考察』

西田歯科技工所 西田 靖之

(三重県歯科技工士会)

37年前、歯科技工士養成所を卒業直後に故市波治人先生に師事して以来、現在に至るまで師の教えである「来院時の顎位を極力変えない技工」、その追求に日々努力している。当時は、陶材焼付金属冠による無計画な審美補綴によって体を壊してしまった患者さんに幾度となく出会い、咬合を習得するまでは顎位を大きく変える補綴装置は作れないと痛感する日々だった。

そのような時期に市波先生より「出来るようになるまでは、患者さんが後戻り可能な義歯を作りながら生計を立てその時に備えなさい」という教えをいただいた。以来現在に至るまでその時のための準備は続いている。

今回は、私が日々製作している最低限必要な機能を有した保険の義歯製作法を紹介しつつ「歯科技工士の現在！再確認！」を試みる。

【抄 録】

『チタン鑄造を成功させるには？』

日技認定講師

株式会社アイキャスト 中井 藤雄

(京都府歯科技工士会)

チタン鑄造を成功させるには、まずチタンの特性を知り、そしてその特性を最大限に活かすために何が必要かを知ることです。

チタンは、活性化しやすく溶融する条件に注意が必要です。そして、鑄造前と鑄造後で比較すると物性も大きく変わってしまうことがあります。

よく「チタンは、硬い」と言われますが、実際には大変柔らかい金属です。純チタン2種の硬さ (HV) は、110以上とGC社のキャストウエルM.C.<金12%>の軟化後の165より遥かに低いとされています。

そのチタンそのものの特性と「何故、チタンは、硬い」と言われるようになったのか？

その物性の変化のプロセスと、本来のチタンの特性を活かすためには、何が必要で何をしなければならないのか？

チタンを理工学的な観点からお話をして、これまでの歯科チタン鑄造の歴史から将来の可能性を語っていきましょうとおもいます。